

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
109	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Psychological distress in non-drinkers: associations with previous heavy drinking and current social relationships. 非飲酒者の心理的な苦悩：現在多量飲酒者と現在の社会的な関係との関連	
執筆者	
Lucas N, Windsor TD, Caldwell TM, Rodgers B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2010 Jan-Feb;45(1):95-102.	
キーワード	
禁酒者 精神的苦痛	
要旨	
目的： この論文の目的は禁酒者において心理的苦痛が少量から適量飲酒者より高いことに関して二つの可能性を検証し、またこの関連は年齢によって緩和されるかについても検討した。この要因としては(i)高いレベルの禁酒者の心理的苦痛は以前の多量飲酒者が含まれていることによる、(ii)禁酒者は少量から適量飲酒者より社会的関係が乏しいことによるの二つである。	
方法： 20歳から22歳、30歳から32歳、40歳から42歳のオーストラリア人2856名(同意率15.9%)が参加した横断調査のデータを用いた。	
結果： サンプルは多くの社会人口学的因子を代表しているが、労働人口出ない人々は過小評価され、大学学位者は過大評価されている。もっとも恒例の群では禁酒者は少量から適量飲酒者より心理的苦痛が大きいことが報告された。一方で、もっとも高齢のグループの禁酒者で大量飲酒者であったものは心理的苦痛が大きかった。彼らを除外した検討では現在禁酒者と少量あるいは適量飲酒者の間での精神的苦痛の違いを説明することはできなかった。40から42歳の禁酒者は少量から適量飲酒者より社会的に除外されており、外交的でなく、社会的サポートも低かった。その因子は部分的に精神的苦痛の増加の一部を説明できた。	
結論： 少量あるいは適量飲酒者と比較して禁酒者の精神的苦痛の有意な増加は40から42歳のグループのみでみられた。禁酒者の高い精神的苦痛は少量あるいは適量飲酒者より禁酒者が社会的な関係に乏しいことで説明ができた。	